



一般社団法人
全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 田名部 智之 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org



会報
No.99

本年度も各単位PTA並びに都道府県、各地区のPTA活動にご参加、ご協力頂きまして誠に有難うございます。今年度、山田前会長の後を引き継ぎ、一般社団法人全国高等学校PTA連合会の会長に就任いたしました、田名部智之（たなぶともゆき）と申します。所属は東北地区の青森県、単位PTAは八戸工業大学第一高等学校の現役PTA会長です。どうぞよろしく願います。

さて、今年度前半の学校行事は新型コロナ対策の緩和により概ねコロナ以前のように通常運営されるが多くなりしました。今の高校生は中学からコロナ禍の為、年間を通して通常の学校生活を知りませんが、今期はやつとアクティブに高校生活を楽しんでいるように感じられます。



ご挨拶

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会 会長 田名部 智之

当然、我々PTAも通常運転開始と意気込む訳ですが役員や担当の先生も変わり、何が通常運転なのか？どの様に運営すればよいのか？など、過去の活動を参考にしようとして記録を紐解いたり先輩に問い合わせたりと戸惑いもあるのではないのでしょうか。また、先生や役員に経験者がいて活動がスムーズに再開出来たとしてもコロナ禍の3年というブランクはあまりに長く、以前の常識が今では通用しないことも発生しているのではないのでしょうか。そうすると、感染症防止とは関係無くPTA活動の縮小や簡素化の方向へ舵を切ってしまうこともあると思います。心情的には理解できますが、大人の都合や新たな常識のために3年という限られた高校生活を謳歌しようとする生徒達

のサポートを弱めてしまふのは保護者としていかにかと思います。それならば改善や効率化を極める等、活動を前向きにブラッシュアップする方に知恵を使うべきです。

特に最近「PTA不要論」等がSNSやテレビ・新聞でも取り上げられ、PTAに参加しない方が善であると言う人まで現れております。8月22日・23日と茨城県水戸市にて開催されました第73回全国高等学校PTA連合会大会の会長挨拶において「PTA不要論」に対し強く否定させていただきました。当会は会員数約190万人で、生徒や学校の為に協力している人の数です。私利私欲も無く、自分が出る範囲の時間と労力とお金を、生徒達の為へとポジティブに割いているPTA

A会員に面と向かい「それは不要」と言えるのでしょうか？ご自分が面倒だからとか、若干の会費がもつたいないというネガティブな思考や理由を正当化して、生徒達の応援を邪魔する事は決して許されません。否定的な想いや対案があるならば、外野から無責任に非難するのではなく、大いにPTA活動に参加し、役員となり、PTA活動を自分の理想の方向へ改善していくべきです。全国大会当日は、あべ俊子文部科学副大臣（当時）も来賓としてご出席賜りました。その際、大会の雰囲気を感じ取っていただき、今後、文部科学省としてもPTAに何らかのインセンティブを持つてもらいたい大いに活躍して頂きたいと激励を頂戴しました。また後日、文部科学省の課長からも国が

今号の主な内容

会長挨拶	1～2頁
第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会報告	2～5頁
地区トピックス	6～12頁
北海道地区／東北地区／北信越地区／東海地区／	

近畿地区／中国四国地区／九州地区	
第74回全国高等学校PTA連合会大会三重大会(ご案内)	13頁
賠償責任補償制度のお知らせ	14頁



全体会 会場



第73回全国高等学校PTA連合会大会

2024茨城大会を振り返って

進めるコミュニティ・スクールはPTAのチカラ無くしては成立しないと云っていたが、より一層の連携を依頼されました。私も生徒達だけではなく地域社会を守るコ

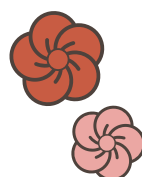
ミュニティーにおいてPTAが大きな役割を果たしていくのだろうと思っております。ちなみに、あべ俊子副大臣は先の内閣改造において文部科学大臣に就

任されました。イギリスの元首相ベンジャミン・ディズレーリは「行動すれば幸せが訪れるとは限らない。しかし行動の無いところに幸せは生まれない」という

言葉を残しています。全国高等学校PTA連合会に属する全ての学校PTA・生徒達が益々活動（行動）しやすくなる環境を整え導いていく事が、スケールメリット

を持つ我々全国組織の責務だと思っております。皆が幸せになる新たなPTAの歴史を共に作ってまいります。今後とも皆様のご理解とご協力を宜しくお願い

申し上げます、挨拶いたします。



令和 6 年 8 月 22 日（木）から 23 日（金）の 2 日間にわたり、第 73 回全国高等学校 PTA 連合会大会茨城大会が、水戸市、ひたちなか市、小美玉市を会場に開催されました。

開催前には、集中豪雨や地震が相次ぎましたが、5400 名を超える申し込みがあり、また、オンラインのみの参加校も 259 校ありました。

大会メインテーマは「歴史の町で変革を!!」サブテーマに「新たな時代が目に入らぬか」とし、現在の予測困難な時代を、幕末の動乱期に例え、そのゆかりある水戸

で学ぶことを目的としてテーマを設定しました。

大会 1 日目 8 月 22 日（木）午後から、5 会場において分科会を開催しました。講演であったり、また、フリートーク、グループトークを取り入れたりして、参加した皆様が少しでも能動的に関われる内容としました。

大会 2 日目 8 月 23 日（金）午前 9 時より、アダストリアみとアリーナにおいて、茨城県立大洗高校マーチングバンド部によるアトラクション演奏で、皆様をお出迎えした後、

9 時 30 分から全体会を行いました。

開会式では、板倉哲男大会実行委員長の開会の挨拶に始まり、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会田名部智之会長の式辞のあと、ご来賓を代表し 3 名の方からご祝辞を頂戴いたしました。

その後表彰式へと移り、はじめに優良 PTA 文部科学大臣表彰が行われました。次に全国高等

学校 PTA 連合会会長表彰と続き、最後に特別感謝状が授与されました。記念講演では、一世を風靡した第 72 代横綱稀勢の里の二所ノ関寛親方に、「人材育成の不易流行」という演題で、講演をいただきました。

閉会式では、大会旗が茨城県から三重県に引き継がれ、無事終了を迎えることができました。



大会ホスター



第1分科会

【分科会】8月22日(木)

13時30分～16時30分

第1分科会

1586名参加

会場

アダストリアみとアリーナ

テーマ

「教育の過去・現在・未来」

サブテーマ

「故きを温ねて新しきを知る」

アトラクション

高校生花いけパフォー

マンス

講演1

講師 茨城県水戸土木事務所借楽園公園課弘道館事務所主任研究員

小坪 のり子氏

演題 幕末の内憂外患といわれる時代、9代藩主斉昭は多難な時局に対応できる人材の育成こそ急務と考え、藩校弘道館を創設した。弘道館は総合大学

講演2

講師 茨城大学教育学部教授(教職大学院・学校運営コース主任)

加藤 崇英氏

演題 もつと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する

「内容」一人一人の子供のために、社会は何をすればいいのか、子供が自ら主体的に、能

動的な学問所であり、その敷地構成や教育内容は他藩の藩校にも影響を与えた。

第2分科会

1045名参加

会場

ザ・ヒロサワ・シティ会館

テーマ

「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」

サブテーマ

「新たな一歩を踏み出すために」

アトラクション

茨城県立水戸工業高校ジャズバンド部

ばいのか。悩む親や教師に、PTAはどのようなサポートができるのか。

講演2

講師 有馬総合法律事務所 弁護士・中小企業診断士

有馬 慧氏

演題 18歳になったら気をつけること～18歳になる前に～

「内容」法的に18歳未満の子どもたちは手厚い保護を受けているが、18歳になると責任ある主体として法律上認められることになる。事例によって、クラスの中に救える生徒、救えない生徒が出てきてしまう。

アトラクション

筑波山名物「ガマの油売り口上」

講演

講師 「大家族石田さんち」のお母さん

石田 千恵子氏

演題 子育ては気力・体力・経済力

「内容」自分が高校のPTA会長を引き受けたとき、どうせやるなら楽しんでやる。そして周りを巻き込んだ。子育ては自分の心が折れない程度に子どものためになりふり構わず。そして自立を妨げない。

フリートーク 石田さんにパネラー3名と会場のみなさんからの質疑応答。

「内容」思春期、反抗期の子供を育てる父親母親の皆さん、子どもを褒めましょう。そして居場所を作つてあげましょう。物理的な部屋ではなく、心の居場所を。

講演1

講師 司馬クリニック院長 医学博士

司馬 理英子氏

演題 のび太・ジャイアン症候群

「内容」ADHD(注意欠陥・多動性障害)の特徴やASD(自閉スペクトラム)症)の特徴を学び、親や教師はどのように関わればいいのか。悩む親や教師に、PTAはどのようなサポートができるのか。

講演2

講師 有馬総合法律事務所 弁護士・中小企業診断士

有馬 慧氏

演題 18歳になったら気をつけること～18歳になる前に～

「内容」法的に18歳未満の子どもたちは手厚い保護を受けているが、18歳になると責任ある主体として法律上認められることになる。事例によって、クラスの中に救える生徒、救えない生徒が出てきてしまう。

フリートーク 石田さんにパネラー3名と会場のみなさんからの質疑応答。

第3分科会

1369名参加

会場

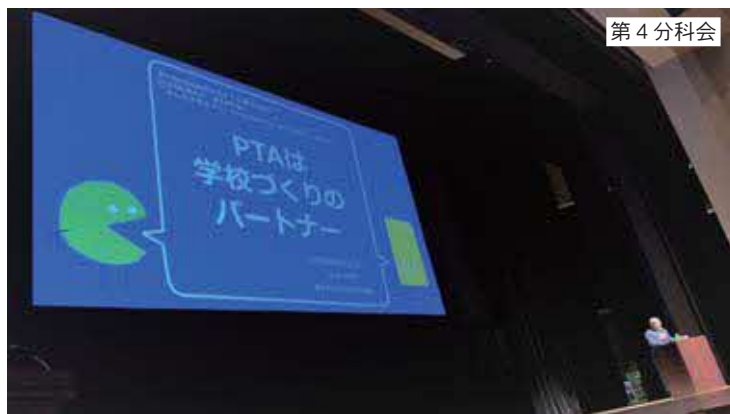
水戸市民会館

テーマ

「新・生きる力と家族の絆」

サブテーマ

「子どもの心に風邪を引かせない」



第4分科会

第4分科会

702名参加

会場

ひたちなか市文化会館
テーマ
「みんなで考えよう、
これからのPTA」

サブテーマ

あるべき新しい姿と
は

アトラクション

茨城県立下妻高校
為櫻應援團

講演

講師 花園大学社会福

社学部教授

演題 炭谷 将史氏
PTAは学校づく
りのパートナー

〈内容〉その学校に子どもが入った以上、その学校の保護者である。全員会員である。本会員、準会員、賛助会員など種別をつくってもいい。役員をできるか、会費を払うかについては意思表示をすればいい。

グループトーク

〈内容〉自分たちのPTA活動の良いこと、楽しかったこと（テーマ1）。困ったこと、相談したいこと（テーマ2）。情報共有したいこと（テーマ3）。最後に講師に個別に聞きたいこと。

第5分科会

290名参加

会場

小美玉市四季文化館
テーマ
「これからのコミュニティ・スクール」

サブテーマ

地域社会との新たな
連携・協働

アトラクション

茨城県立麻生高校
書道部

講演

講師 国立教育政策研究

所生涯学習政策研究
部 総括研究官
志々田 まなみ氏

演題 学校と地域とでつ

くるこれからの学校
ーコミュニティ・ス
クールとはー

〈内容〉価値観や立場や役割が異なる人たちが、それを超えてでも何とかしなくてはならない課題があったとき、目標確認が絶対必要で、それを確認する場がコミュニティ・スクール、学校運営協議会である。

グループトーク

〈内容〉子どもたちに

付けさせたい力につい

て、保護者として、PTAの役員や教職員として、地域の住民として、あなたができることをなるべくたくさんの方と話し合える機会を見つくる。

【全体会】 8月23日(金)

9時～12時30分

会場

アダストリアみとアリーナ

アトラクション

茨城県立大洗高校
マーチングバンド部

◇板倉哲男実行委員長挨拶

◇田名部智之大会会長式辞（抜粋）

昨今コロナ禍以降の新たな教育のニーズ、子どもたちへの支援方法、学校への関わり方等様々なものの価値観が大きく変わってきている。特にPTA不要論については、コミュニティ・スクールが推奨されている今、PTA無くしては学校と地域の橋渡しができない。我々は襟を正し、ネガ

ティブな風潮を払拭し、結束して良いPTAになるよう共に活動していきたい。

◇来賓祝辞

ご来賓を代表し、3名の方から祝辞をいただきました。

あべ 俊子 文部科学
副大臣



大井川 和彦 茨城県
知事



志田 晴美 水戸市長
代理

◇表彰式（10時～10時30分）

令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰は、文部科学副大臣あべ俊子様から26団体が、全国高等学校PTA連合会会長表彰は個人69名、団体78、役員等33名、特別感謝状2名が田名部会長より表彰されました。受賞者を代表して、全国高P連前会長山田博章氏が謝辞を述べられました。

◇記念講演（10時40分～11時50分）

講師 二所ノ関寛氏（第72代横綱 稀勢の里）



演題 人材育成の不易流
行

〈講演要約〉横綱引退後、早稲田大学大学院での学び直しは、凝り

田名部智之大会会長の挨拶の後、全国高P連旗が板倉実行委員長から田名部全国高P連会長に返還され、田名部会長から次期開催地三重大会小野喜照実行委員長に授与されました。

その後ステージでは三重大会のPR動画が上映され、三重県らしく忍者に扮した小野実行委員長

◇閉会式（12時～12時30分）

固まった考えの脳みそをマッサージされた思い。これまで角界で行われてきた稽古面、生活面での弟子育成方法に新たな試みを取り入れた。それはある意味「流行」であるが、変えてはならない伝統「不易」も厳守しなければならぬ。どんな力士を育てたいのかと問われ、「皆様に愛され、怪我に強い力士」と答え、どのように力士を育てたいかと問われ、「受け身ではなく、自分自身で考え抜くよう指導する」と答えた。

から来年三重大会での再会を約して、茨城大会は閉会しました。



全国高P連会長表彰



文部科学大臣表彰

2025三重大会ポスター



次期開催地あいさつ



2025三重大会シンボルマーク



ポスター原画

地区
トピックス

北海道地区

北海道高等学校PTA連合会

北海道地区 大きな大地を踏みしめながら 育つ子どもたち

1 はじめに

PTA加盟校数、245校を有し、広域分散に特色をもつ北海道において、学校と地域の結びつきはとて重要であり、互いに良さを分かち合いながら、特色ある学校づくり、特色ある地域づくりに取り組んでいます。今回は北海道の東に位置して、冬は厳寒の地、オホーツクにあって、「文武両道」「質実剛健」を建学の精神として受け継ぎ、百年の歴史を誇る伝統校、北海道北見北斗高校PTAの取組を紹介します。

2 特色あるPTA活動

(1) 4月20日(土) PTA総会

4月にPTA総会を開催しました。総会を開催するにあたり、多くの会員の方にご出席いただくために、授業参観を行った後に総会を実施しています。今年度も約二百名の保護者が来校し、ほと

んどの方が総会にも出席していました。会計や行事に関わつての質問や意見があり、充実した総会となりました。

(2) 5月10日(金) PTA役員会

5月にはPTA役員会を開催しました。約60名が参加し、委員会に分別委員長や副委員長を選出、今年度の活動について計画案を作成したほか、それぞれの議題について議論がなされました。最後に全体に報告し、今年度の活動予定を共有しました。

(3) 6月8日(土)～9日(日) 第73回北海道高等学校PTA連合大会北見大会

今年度の全道大会運営当番は9年ぶりにオホーツク支部でした。北見北斗高校が主管校となり、昨年度から支部を挙げて大会準備に当たってきました。誰もがほぼ初めての経験であり、会場の確

【学校に対する応援意識も高い北見北斗高校PTA】



保や経営計画のほか、大会要項等の封筒詰め作業や昼食湯茶の発注等、細部にわたり声を掛け合いながら、近隣校も含めた皆さんのPTA役員の方の協力を得て準備を進めました。

大会当日は全道各地からおよそ六百名程の参加を得、開会式後の講演会では、本校出身で産婦人科専門医兼タレントの丸田佳奈氏により「北海道の若者が全国で活躍する未来への期待」と題し講演が行われ、PTA活動を考える機会となりました。

た。その夜は、4年ぶりの懇親会を行い、大会参加者の約8割の方が集まり交流を深めました。



【高校のPTA会員が一堂に会する全道大会で講演する丸田佳奈氏】

大会2日目は、本校のほか市内3校が分担してそれぞれの分科会を実施し、それぞれのテーマに沿って他校のPTAの方々と熱心に対話を重ね、日頃の悩みや取組を共有するなど、実りある研修会となりました。

(4) 7月5日(金)～7月7日(日)文化祭(3日間)

文化祭初日の仮装パレードでは、PTA役員数名が審査員を務め、各クラスが作成したすべての山車の完成度やテーマ性などについて審査しました。

2日目の一般公開日に

は、躍動する生徒の姿を写真に収めるほか、教室発表の出来映え、内容、装飾等について審査するなど、保護者が様々な役割を担当し参画しました。

最終日には、5年ぶりの開催となった合唱コンクールが行われ、素晴らしい歌声で体育館が包まれ、その様子は保護者にも配信されました。夜の恒例の花火も保護者や地域の方々と一緒に楽しみ、三日間の文化祭を締めくくりました。

(5) 9月29日(日) 強行遠足

第92回強行遠足を実施しました。強行遠足は、本校の伝統行事であり、卒業生の多くが高校時代の一歩の思い出として挙げています。若いうちに苦しいことへ挑戦すること、どんなことにも挫けずに進んで行ける不屈の精神を養い、進路実現を図る礎となるものです。保護者や関係者による関門での手伝いのほか、コース上での監視係や誘導係、緊急時の医師や看護師など、600名近い保護者や地域の方々の協力を得て毎年実



▲【学校・家庭・地域が一体となった伝統ある強行遠足で成長する生徒たち】

施している、まさに学校とPTA、地域の連携による一大行事です。

今年度は、近年の暑熱対策により練習時間の充分な確保が困難なことなどから、男子の距離を71kmからおおよそ56kmに変更しましたが、早朝のスタートは男子4時、女子5時、日も出ない肌寒の中で反射材を肩にかけての出発でした。沿道での応援や関門でのお汁粉の提供などに励まされゴールを目指し、男子は90%台、女子はほぼ100%近い完走率でした。出走した生徒、手伝いのPTAや地域の方々などが、それぞれに達成感や充実感、人の結びつきの大切さを実感した一日となりました。

第73回東北地区高等学校PTA連合会山形大会は、「見つめよう、HOME」世界へはばたく子どもたちへ」のテーマのもと、7月4日(木)・5日(金)、やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)を会場に開催されました。

4日には大会運営会議の他、出席者390名による情報交換会が盛会に行われました。

5日の大会は、東北各地から1,200名を超



地区トピックス

東北地区

山形県高等学校PTA連合会

山形大会「見つめよう、HOME」 世界へはばたく子どもたちへ

える参加者を迎え、オープニングとして、東北で唯一公立高校に音楽科のある山形県立山形北高校3年高橋良東(よしと)さんによる、山形県民の歌「最上川」の独唱があり、清々しい空気に包まれる中、近藤聡実行委員長の開会宣言に続いて古沢克明会長及び中川徹全国高P連事務局長の挨拶、そして山形県知事、山形市長より祝辞をいただきました。表彰式では、地区のPTA活動に功績のあった48名の方々に表彰状・感謝状、広報紙コンクールの入賞校18校に表



県民の歌「最上川」独唱

彰状が贈呈された後、今年度の東北地区役員の紹介が行われました。続く研究協議では6県代表による事例発表と質疑、意見交換が行われました。特色ある取組みには学校視察の希望があったり、共通する課題に理解を深めました。指導助言は、社会教育・生涯学習を専門とする山形大学地域教育文化学部教授安藤耕己氏よりいただきました。

昼の休憩時には、大会事務局校である山形東高校マンドリン部による演奏があり、時に優しく、時に力強いマンドリンの音色を披露してくれました。午後はクリエイティブディレクターのマンジョット・ベディ氏を講師に迎え、「Designing the NEXT Japan」との演題で講演をいただきました。氏は子どもがグローバル社会に対応するにはコミュニケーション力や創造力が大切だと強



マンジョット・ベディ氏

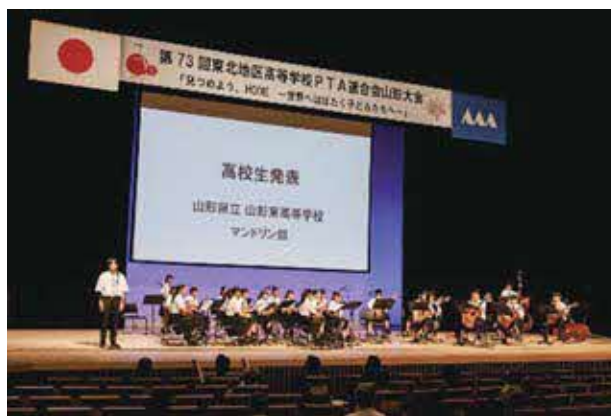
調し、「なぜ」の視点を持てると物事に積極的になれる。大人が手本になつて」と呼びかけられました。加えて「子どもは少しできるようになれば、やる気が湧く。興味関心を理解するためにも、普段から共通の会話を心がけて欲しい。視野が広がる」と述べられました。

大会ファイナレは、天童高校ダンス部が力強いパフォーマンスを披露してくれました。

最後に次期開催県から挨拶があり、来年の仙台大会での再会を期すとともに、近藤実行委員長の閉会宣言により充実した大会の幕を閉じました。



▲天童高校ダンス部



▲山形東高校マンドリン部

北信越地区高 P 連研究大会(長野大会)地区大会報告
 5 年ぶりとなる地元開催の令和 6 年度北信越地区高 P 連研究大会長野大会が、7 月 5 日(金)・6

日(土)の両日、「歴史の町で未来を描く」新たな時代をどう生きるか」をテーマに長野市のホク

開会式



地区トピックス

北信越地区

長野県高等学校 PTA 連合会

「歴史の町で未来を描く」
 新たな時代をどう生きるか」

ト文化ホールを会場として開催されました。北信越 5 県から 900 名を超える参加者がありました。開会式では、最初に同じ北信越の仲間として、元旦に起こりました能登半島地震で尊い命をなくされた方々のご冥福をお祈りし、哀悼の意を表するために、黙祷を捧げました。続いて主催者を代表して松本正一北信越高 P 連会長の挨拶に続き、全国高 P 連の中村慎也副会長の挨拶、ご来賓の長野県教育委員会武田育夫教育長様、荻原健司長野市長様からご祝辞をいただきました。そして、PTA 活動に功績のあった 30 名に表彰状と記念品が贈られました。

開会式後の歓迎アトラクションでは、全国大会常連の長野西高等学校バトン班によるキビキビとした素晴らしい演技が披露され、拍手喝采となりました。

小平奈緒 氏の記念講演



発表では、各県代表 1 校が壇上発表、残りの学校は誌上発表となりました。本県からは諏訪清陵高校の前澤祐司 PTA 会長が壇上発表を行い、各校の取り組みに時間が足りなくなるほどの活気に満ちた発表となりました。

600 名ほどが参加された教育懇談会では、最初に阿部守一知事のご祝辞をいただき、長野県の多くの酒蔵から集められた銘酒の数々、塩尻志学館高校のワイン、そして地元食材の美味に舌鼓を打ちながら、親睦の輪が広がりました。

大会 2 日目は、オリンピック金メダリストの小平奈緒さん(相澤病院)より「知るを愉しむ」と題しての記念講演があり

ました。5 年前の長野大会では、コーチである信州大学の結城匡啓先生の記念講演があり、今回はご本人からお話をお聞

きすることができました。

幼少期から

のご自身を振り返って、心を動かされる「愉しむ」ことが大切で、色々な経験をすることで自分の心としっかり向き合ってきたとお話をされました。

小平さんの経験を踏まえたお話は、親として、また教師として子どもたちに何を伝えていけばいいのか、考えさせられるすばらしいお話でした。

講演後の質問では、時間をオーバーして多くの方々から質問が寄せられ、小平さんの丁寧な受け答えに誠実さを感じ、素晴らしい講演会となりました。

閉会式では、長野大会の大会宣言が決議され、福井県高 P 連の入場理

に松本正一長野大会実行委員長の挨拶で全日程を終了し、大会は幕を閉じました。

今回の長野大会開催にあたり、2 年前より北信地区の加盟校を中心に実行委員会を組織し準備を進めてまいりました。大会当日は、多くの会員の皆様のご協力により、朝早くから準備をしていた

だき、滞りなく全日程を終えることができました。ご協力いただいた皆様、多くの参加者を送っていただき大会を盛り上げていただいた県下の加盟校の皆様方には深く感謝申し上げます。

来年度の大会は 7 月 11 日(金)・12 日(土)両日にわたり、福井市の福井フェニックス・プラザをメイン会場に開催されます。長野大会には多くの皆様にご参加いただきましたので、福井大会にも多くの皆様にご参加いただき、盛り上げていただきますようお願いいたします。

地区
トピックス

東海地区

三重県高等学校PTA連合会

令和6年度東海地区高等学校
PTA連合会「三重大会」

東海地区高P連では、地区大会開催日の午前中に各県役員による総会を行い、午後から大会を開催しています。6月21日（金）、令和6年度東海地区高等学校PTA連合会「三重大会」を津市の三重県文化会館大ホールで開催し、東海4県から約850名の参加がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で、一昨年度の愛知大会は各学校1名、昨年度の岐阜大会は各学校2名の参加制限下での開催でしたが、本年度はその人数制限を解除して盛大に開催することが出来まし

た。それでも、コロナ禍前は1000人超の参加者を集めていたことを考えると、その影響は少なかつたことを実感しました。なお、来年度は全国高P連大会「三重大会」が開催されることもあり、会場には横断幕が掲示され、三重県のスタッフはみなお揃いのオ

レンジのポロシャツを着用していました。

開会式では、東海地区高P連の小野喜照会長、全国高P連の山田博章会長が主催者として挨拶し、来賓の三重県教育委員会教育長の福永和伸様、三重県立学校長会会長の早川巖様から祝辞をいただきました。



▲開会式（小野会長挨拶）

開会式に続き、東海地区の2校による研究協議を行いました。まずは、三重県立神戸高等学校PTAが「これからのPTA活動」をテーマに発表を行いました。百年以上の伝統をもつ学校の紹介がされ、その後コロ

ナ禍を経ていかにPTA活動を再開するか役員を中心に検討し、今までの活動をそのまま継続するのではなく、より合理的で実質有意義な活動「新しいPTA活動」を展開することにすることが紹介されました。具体的には、毎年参加率の低い総会については、Google Classroomを活用した書面決議を採用し、膨大な書類の印刷冊子づくりを省略すると共に、確実に各保護者が資料に目を通し、Googleフォームにより採決をとる形としたこと、広報誌も記事の「新鮮度」を考慮して、従来の紙発行から、行事などをGoogle Classroomを



▲研究協議（三重県立神戸高校）

活用して学校の様子などを早期に発信していること等が報告されました。続いて、愛知県立半田工科高等学校PTAから「コロナ禍に委員でつくるPTA活動」と題して発表がありました。こちらでも学校の沿革などが紹介された後、コロナ禍にどのようなPTA活動を継続させるのか試行錯誤した中から、重点をおいた活動が3つ紹介されました。まず、従来文化祭で実施していた喫茶は、令和4年度は震災企画展及び震災関連ゲームや体験を行い、令和5年度は食品バザーが可となったものの、より感染リスクの低い、お菓子づくりを行ったこと。次に、年2回の登校指導や卒業生へのコサージュ付けは、以前はPTA委員のみでの実施であったものを、委員で話し合いを重ねた結果、一般の保護者にも呼びかけ、多くの保護者の参加を得て実施ができ、実際に参加した保護者の皆さんの満足度向上と共にPTA活動がより広く活性化することが報告されました。

両校とも、コロナ禍で著しく活動が抑制された時を経て、どのようにPTA活動をより有効な活動とできるのかを役員中心に検討した結果、残すべきものはしっかり残し、時代や状況に応じ変化させながら、より良い形や内容のPTA活動となったことが発表されました。発表後は質疑応答も活発に行われるなど、気づきの多い時間となりました。大会の最後は、地球の広報・旅人・エッセイストのたかのてるこさんによる「世界は愛でできている」自分の全細胞が、毎日、自分自身を応援している！と題しての講演を行いました。講師紹介から質疑応答までも全てたかのさん一人で行う仕切りなど、海外74カ国を旅してきた「てるちゃん」のエネルギー爆発の本当に楽しく元気をもらった90分でした。



▲研究協議（愛知県立半田工科高校）

た。「短所を長所に」「形にこだわらず自分らしくいきていけばいい」など様々なキーワードに共感し、気持ちが楽になったようです。最後は、「心配しない！心配するなら行動する！」という魔法をかけていただき、皆ポジティブになれました。終了後のホワイエでたかのさんによる書籍販売とサイン・ハグ会は大盛況で、会館閉館後もホール前のロビーで行われていたことにも参加者の満足度が高かったことが見て取れました。

最後に、次年度開催県の静岡県を代表して、静岡県公立高等学校PTA連合会の住吉 明会長が閉会挨拶を行い、次年度は令和7年6月27日（金）に静岡市のマリナート（静岡市清水文化会館）で開催されることが報告され、大会を終えました。



▲たかのてるこさんの講演

第49回近畿地区高等学校PTA連合会大会京都大会が、京都の一大風物詩、祇園祭宵々山にあたる令和6年7月15日（月・祝）、国立京都国際会館を会場に、近畿各府県市から1,100名を超える会員の現地参加と、116校のオンライン参加により盛大に開催されました。「不易流行」変えてはいけないこと、変わらなくてはならないこと」を大会テーマに、コロナ禍を経て、昨今の



いものは親が子を想う心、子は宝だと想う心。そして、時代の変化を受け、新たな風を起こすことも大切」という思いのこもったあいさ



都（葉加瀬太郎作曲）で近畿各地の皆さまをお迎えし、一気に大会の高揚感を作り出した。鈴木良彦近畿地区連合会会長の「変わらないもの、変えてはいけな

P TA活動の在り
方の変化の中で、
私たち保護者は持
続的により良いP
TA活動をいかに
していくべきかを
考える機会として
開催しました。
オープニングで

演の前に、令和6年度京都府立高P連各務宇春会会長から「変わり始めたPTA活動く京都府高P連からの発信く」と題して、事例発表があり、後に多くの反響をいたしたく

つのと、伊福聡全国高
P連副会長、古川博規京
都府副知事、松井孝治京
都市長の祝辞をいただき
ました。続いて令和5年
度近畿地区広報誌コン
クール表彰、功労者感謝
状授与と開会行事が華や
かに行われました。

こととなりました。

記念講演では「子どもの才能の見つけ方、伸ばし方」と題して、世界で御活躍のピアニスト辻井伸行さんの母である、辻井いつ子様から、全盲で生を受けた伸行さんに対する手探りの子育ての中で、様々な気づきや出会いを通して、いかにその才能を見つけ、伸ばしてきたかをお話しいただきました。「なんとかわれようと、とにかく彼が好きで、その物事に向かつて一生懸命やつているのなら、それをまず信じてあげられるのは親だし、そのあと、いい先生であったり、周りの方たちの理解、たつたりで育まれていくことなので、まず親は一番の子どもの応援団長だと思っています。その子どもがこうしたいと言うときに、あなたなら絶対出来るよという言葉がけが、子どもにとつて非常に大きな力となり、大事なことを考えています。才能を見つけるとか伸ばすということでは、ノーと言わず、できるよきつというスタン



スで応援していくこと。親としてはそれだけで十分だと思います。」

子どもに対する接し方の、大きなヒントをいただきました。

閉会式では、十倉宏始大会副実行委員長から大会宣言が発表され、全会一致で採択を受けた後、次年度開催県の丸尾友明兵庫県公立高等学校PTA連合会会長の「来年は兵庫県姫路市でお目にかかりましょう！」の言葉で大会が締めくくられました。そして、閉会あいさつの後、祇園囃子が会場に流れる中、それぞれの想いを胸に、参加者は会場を後にされました。

会場の京都国際会館では、オープニングの合唱が始まる前から、京都府内の農業学科、水産学科各校のお茶や野菜、アイスクリームや鯖缶などの生鮮や加工品、特別支援学校で作製された陶器や

コロナ禍が一定収束し、今後のPTA活動について考えるきっかけとなる大会をめざしましたが、参加いただいた会員の皆さまの、一堂に会する喜びと、同じ思いを志す決意を強く感じる中、無事終了しました。

くの来場者にお買い上げいただき、大変喜ばれました。また、大会参加申し込み、入場については、オンライン、ネットバンキング振込、二次元コード発行で事務作業を大きく軽減する方式を取り、コンパクトな大会運営を実現することができました。



木工製品な
どがPTA
会員や生徒
たちによつ
て販売され
ました。多



地区
トピックス

中国四国地区

高知県高等学校PTA連合会

「はばたけ若人よ郷土の天空へ」
みんなあゝが願いうづぜよ！

第66回中国・四国地区

高等学校PTA連合会大会高知大会が令和6年7月12日（金）高知県民文化ホールにおいて、地区内の9県より会員および大会関係者を含め約1,100名が一堂に

会し開催されました。

開会式では佐竹実行委員会長の挨拶に続き、全国高P連の田名部智之会長のメッセージを伊福聡副会長が代読し、「未来を担う若者たちが健やかに成長できる環境を築いていくことが私たちの使命である」と挨拶がありました。

開会式



続いて長岡幹泰高知県教育長の挨拶、濱田省司高知県知事、桑名龍吾高知市長からご祝辞をいただきました。

その後、「夢を叶えるジョン・スピリット」をはじめて世界を見た日本人ジョン万次郎」と題してジョンマン語り部の垣内守男氏に講演いただきました。講演では、ジョン万次郎が生きた時代背景とともに彼がたどった道のりと果たした役割をクイズ形式の質問をしながら大変分かりやすく語られました。彼が残した「諦めない、投げ出さない、人の役に立つ」というメッセージが心の奥

垣内守男氏の講演



に強く響きました。

昼食時の休憩時間には、会場ロビーにおいて県内6校の高校生による生産・加工物等の販売が行われ、ほぼ売り切れる盛況ぶりでした。また、高知県のゆるキャラ「くろしおくん」との記念撮影場所も設けられ、順番待ちができるほどの人気でした。

午後からは高校生による活動発表が行なわれました。高知丸の内高校、高知農業高校、大方高校および高知商業高校の生徒たちが学校の特色と地域の課題解決に向けた取組を発表し、その真摯な取組や主体的な活動に感



高校生による生産・加工物販売

心しました。

引き続き研究協議が行われ、3つの研究発表をもとに質問や活発な意見交換がありました。最初は、山口県立下関双葉高等学校の山崎利幸PTA会長が「多部制定時制高校のPTA活動10（ゼロ）から始めた5年間」と題して発表されました。開校僅か5年の新設校であり、多部制のため生徒同士が共有できる時間がない環境の中で、PTA組織づくりや生徒支援、学校運営支援にPTAとしてどう係わるのかを模索し、「できることをできるだけ」という考えで活動してきた5年間の取組発表でした。

次に、鳥取県立米子東高等学校の濱田伸PTA会長が「PTA活動と地域に根差した魅力ある学校づくり推進事業の取組について」と題して発表されました。創立125年を迎える伝統校のPTA活動の中で、生徒のニーズに応えるために職員の勤務体制を工夫することで平日の自習室の利用時間を延長したことや地域・同窓会と協

力して自習室の監督業務を行うことで休日利用を可能にしたことが報告されました。

最後は、高知県立高知国際中学校・高等学校の曾根美和PTA会長が「高知国際中学校・高等学校のPTAの活動ははじめの一歩」と題して発表されました。学校統合によりできた新たな学校で、国際バカロレア認定校として、四国初のIBワールドスクールに認定されています。統合当時は5つの学校が存在していましたが、一緒にPTA活動をしてきた統合前後の2年間の取組について発表されました。

閉会式では、佐竹実行委員会長の閉会挨拶に続き、次期開催県の原完次島根県高P連会長が壇上に集まったPR隊の方たちと一緒に来年の島根大会への参加を呼びかけました。

全体を通して、新たな学びと充実した時間を共有できた大会となりました。

地区
トピックス

九州地区

▼長崎県公立高等学校PTA連合会

いいね！ 発信 熊本大会

『いいね』から始めよう！ 認める・つながる・楽しむ！

6月20日(木)ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ、21日(金)熊本城ホールで2日間にわたり開催されました。初日の雨は2日目にはあがり、汗ばむ陽気となり、九州各県の皆様に快く迎えてくれました。

20日は、九高P連4委員会、理事会・総会が開催されました。
4委員会(総務・健全育成・進路対策・調査広報)では、前年度からの引継ぎ事項の確認をし、本年度は以下のことについて取り組むこととしました。
(総務委員会)
PTA非加入問題やタブレット・エアコン等のOA機器の公費負担について
(健全育成委員会)
昨年の引継ぎ事項であるSNS等利用に絞ったアンケート項目と分析について
(進路対策委員会)
進学、就職に関する情報収集とそれぞれの支援について
(調査広報委員会)
個人情報保護ガイドライン、広報紙コンクルの在り方について
4委員会は、研究や協議を通して、各県連はもとより各単P活動の活性化を目指し、情報提供・発信を行います。
21日は分科会、アトラクション、全体会・表彰式、記念講演が行われました。

第1分科会「青少年の健全育成とPTA活動」

生徒・学校・地域に合わせ、工夫を凝らした活動報告が4県よりなされました。
第2分科会「進路指導とPTA活動」

新しい時代を理解し、学校とともに子供たちをどう支えるかの実践発表が4県よりなされました。
第3分科会「金融教育とPTA」

基調講演、パネルディ

スカッションが行われました。

尚絅大学短期大学部名誉教授 川口恵子先生「学校における消費者教育と金融経済教育」と題した基調講演では、日本人の金融リテラシーの低さが特殊詐欺の温床になっている。ラフオンテヌの寓話「カラスとキツネ」からカラスの選択をしないグローバルスタンダード(国際標準)の消費者教育の推進が金融教育であるとお話を聞かせていただきました。その後、学校・PTA・金融関係の3名の方々によるパネルディスカッションが行われ、情報をつのみにしない正確な知識と金融リテラシー(金銭感覚、家計管理能力、経済・金融・消費の基礎知識)を身に付けることが大切であることを学びました。

アトラクション
(熊本県立鹿本農業高等

学校郷土芸能伝承部)「奉納・山鹿灯籠」上がり灯籠と気品ある金灯籠、雅な調べを奏でる「よへほ節」で幻想の世界へと誘われました。
(熊本県立第一高等学校合唱団)
「明日のノート」「Let's sing a song」澄んだ歌声とハーモニーに希望と勇気を頂きました。
記念講演
熊本大学理事
宮尾 千加子 氏
「くまモンの人間力」
くまモンの誕生から活躍、そして愛され続けている魅力についてのお話とともに、新しいことにチャレンジする行動力、新しいことを学ぶスキルを持ち続けることをご教示いただきました。講演の後半には、くまモンが登場。キャラクターに魅了された大盛会のうちに講演は終了しました。
「九州はひとつ」の合言葉の下、時代に沿った協議と研修を通して新しい輪が広がることを期待して、次年度開催県である沖縄県に九高P連旗が引き継がれました。

いいね！ 発信

アトラクション
▼第一高等学校合唱団

アトラクション
鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部
▼「奉納・山鹿灯籠」





出会いはじまる常若のくに
「集い、想い、継なく」三つの重なる明日への力

第74回 全国高等学校PTA 連合会大会 2025 三重大会のご案内



「日本-やかまし祭り」[桑名石取祭]

大会趣旨

新型コロナウイルス感染症拡大により脆弱層への影響が生じ、ジェンダー間の格差や子どもの貧困率など、日本国内でも様々な既存の課題が一層浮き彫りになりました。そして、これまで進んでこなかったデジタル化が急速に進み、社会が大きく変わっていく確かな予感も生まれています。

三重県は「国生み神話」の舞台とも言われており、深い森と穏やかな内海、豊かな自然に抱かれたこの大地は、いにしえより多くの神々が集う場所として信仰を集めてきました。そして、その中心となる伊勢神宮では、式年遷宮という行事が1300年という長きにわたり繰り返されてきました。式年遷宮は、古くなったものを作り替えて常に若々しくして永遠を保つという発想です。これは「常若思想」に基づくもので、この和のサステナビリティは、SDGsに向けて持続可能な取組とも相容れるものであり、これからの社会を救うカギになるかもしれません。

今この三重の地において、集い人との関わりを大切にし、想い知恵をしほり、継なく明るい未来へ希望をつなぐ、この三つの明日への力が湧き上がるような機会としていきますよう！

世界でも、カーボンニュートラルの実現に向けた動き、新たな国際秩序の枠組、AIの台頭、データ活用の急速な進展など、新しい時代に向けたドラスティックな変動が既に始まっています。このような時にこそ、私たちは真のコミュニケーション能力や創造力、発想力といった人間の本質的な能力を磨き、子どもたちにも育んでいかなくてはなりません。「常に新しく本質を伝承していく」常若思想を子育てや親子関係、学びや教育、そしてPTA活動に採り入れ、真のサステナビリティを備えた活力あふれる時代を築いていくことを強く願います。

【大会日程】

第1日目 8月21日(木)

- 13:00～13:20 アトラクション
- 13:30～14:30 開会行事・表彰式
- 14:45～16:45 分科会(4分科会)
- 第1分科会
子育て、そして親育ち
～言葉の力を磨き、子どもの心の声を聴こう～
- 第2分科会
実力発揮のコツ
～無名野球部2校を甲子園に導いた元監督が伝授～
- 第3分科会
AI時代におけるWell-Beingなキャリアデザイン
～青春期における感情・認知体験の重要性～
- 第4分科会
Let's PTA!
～これからのPTA活動を考える～

第2日目 8月22日(金)

- 9:35～ 9:50 アトラクション
- 10:00～11:30 記念講演
中島 伸子氏 井村屋グループ代表取締役会長 CEO
- 11:40～12:10 閉会式

【大会ホームページのリンク】

<https://pta2025-mie.com>



【大会ポスター】

全国高等学校 PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？
全国加盟高校の 2 校に 1 校が加入しています。

掛金

年間 400 円（保険料 391 円 + 制度維持費 9 円）×生徒数

※補償開始日が令和 6 年 4 月 1 日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 4 月 1 日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくは P T A に過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	事故発生 件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1 事故 1 億円 自己負担額 1 事故 5 千円 (注) 対人事故・対物事故合算して 1 億円が限度となります。	99%超
2. P T A 活動の遂行に起因する賠償責任 (P T A の賠償責任保険)	対人 1 名 5 千万円・1 事故 5 億円	1 %未満
	対物 1 事故 5 千万円 自己負担額 1 事故 1 千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者 1 名 1 0 万円 保険期間中 500 万円 自己負担額 1 事故 5 千円	
年度	支払金額 (千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の自転車車で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。【過去最高支払金額】
H24年度	22,460	プライベートで外出中、自転車同士との接触事故。相手方脳挫傷となる、5 か月後に死亡させた。
R1年度	47,549	自転車走行中、対向の歩行者を見て右に避けたところお相手歩行者も同じ方向に避け衝突した。
R2年度	44,352	マスコミ報道事案／免責 5000 円／重複他社損保ジャパン社あり

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、自転車事故に限らず国内における事故を 2.4 時間、幅広く補償しております☆

詳しくは、「全国高 P 連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ 1 月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会
東京都千代田区神田佐久間町 2-1
奥田ビル 301 号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社
(担当：公務第二部 文教公務室)
引受共同保険会社 AIG 損害保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
損害保険ジャパン株式会社
TEL.03-3515-4133
TEL.03-6848-8480
TEL.03-3259-4061
TEL.03-3349-4679

AIG AIG 損保

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会後援
AIG 高校生外交官プログラム
(参加費無料)
<https://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、
子どもたちの未来。」
私たちは AIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG 損害保険株式会社
TEL.03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

MS&AD 三井住友海上

安心のゴールキーパーでありたい。

GK

**クルマの
保険**

**すまいの
保険**

**ケガの
保険**

マングローブの森づくり。
それは、豊かな地球を
未来に届けること。

マングローブ価値共創
100 年宣言

東京海上日動
www.tokiomarine-nichido.co.jp

損保ジャパン
SOMPO Innovation for Wellbeing

Innovation
for Wellbeing

すべての人々の幸せと、
より良い社会のために。
私たちは、
笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、
イノベーションを起こし続けます。

損保ジャパンは SOMPO グループの一員です。
損害保険ジャパン株式会社
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

